

友人が送ってくれた写真です。「最初は花が咲いているのかと思ったら、キノコでした」というコメントでした。私はキノコだけは少し詳しいので、すぐに「オオシロカラカサダケ」と同定しました。決め手は、「傘の色や形状」「傘の上面の花のような模様」「茎の高さ」「竹林に群生」「根元がまとまらず、1本ずつ単独に発生している」などの形態的、生態的な特徴です。心配なので、ChatGPT にも同定してもらいました。以下はその回答です。

- ・竹林の地面に多数発生しているキノコですね。特徴を整理すると：
- ・傘は白〜クリーム色で、中央がやや褐色。
- ・傘の表面は平らからやや凹み、同心円状に色が残る。
- ・茎は細長く、傘に比べてやや華奢。
- ・群生（大発生）している。

これらの特徴から最も有力なのは *Chlorophyllum molybdites*（和名：オオシロカラカサダケ）です。

オオシロカラカサダケ（大白唐傘茸）は、日本各地にごく普通に発生するキノコですが、これほどの大発生は珍しいと思います。幼菌は白い球状ですが、傘が開くと、幼菌を覆っていた膜（外套膜）が破けて、それが傘の上に花のような模様を残します。

最大の「特徴」は毒キノコだということです。特に幼菌時は白くてマッシュルームのようにも見え、毒キノコのイメージではないので、誤食も多く発生しています。ドクツルタケのような死に至る猛毒菌ではありませんが、やはり腹痛や嘔吐、下痢などを起こすそうです。かつては国内では稀なキノコだったのですが、気候変動の影響か、近年ではごく普通に見られるようになったそうです。ちょっと注意しましょう！

（2025 年 9 月下旬／栃木県宇都宮市郊外）

